



子ども会(学習会)だより



MY SKY 第32号



発行者

板野中学校

マイスカイ

1997年3月13日木曜日発行(毎週火曜日定期発行)

学習会

編集・販賣:吉成社

答辭 今静かに目を閉じますと、過ぎ去った三カ年の様々な思い出が浮かんでまいります。

何もかもが新鮮で期待と不安に胸膨らませながら臨んだ入学式。クラス一つになり、友情の和をより広げた体育祭や文化祭。また、二年生の修学旅行は自然の雄大さに感動し、戦争の悲惨さに触れ、平和への願いを強くした貴重な体験でした。真夏の太陽の下で、雪の舞う寒さの中で友と励まし合い、厳しい練習に耐えた部活動。自分との闘いだった受験勉強。

そして、学年、学校全体で取り組んだ部落問題学習。私たちはこの全体学習で、涙を流しながら自らの思いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共に感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。「本音を語る」たったそれだけのことが、どれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で初めて知りました。部落問題学習に取り組んでいた時の私たちは「輝いていた」と自信をもって言うことができます。

私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生のみなさまに託します。

かれこれ4年も前になる、卒業式の答辭です。この文章を読む度に、全体学習の原点を思い起こさせてくれます。泣いたり、怒ったり、笑ったり、喜んでみたり……ときには泣き笑いや泣き怒り(?)もありました。本当に喜怒哀楽の豊かな、感性の豊かな子どもたちでした。卒業あたりに吹く春風が頬あたりをかすめる度、思い出します。懐かしい思い出です。

さて、今年の卒業式では、どんなドラマにめぐらしあれるのでしょうか。それもまた楽しみです。全体学習の元で育った3年生の姿を、心待ちにせずにはいられません。

それと同時に思い出すのが、「峠」の詩です。現1・2年生はなじみが薄いかもしれませんね。でも、3年生には思い入れが深いのではないのでしょうか。

山卡

まかべ
真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。

峠には訣別のためのあかるい憂愁がながれている。
けつべつ ゆうしゅう

峠路をのぼりつめたものは

のしかかってくる天碧に身をさらし
てんぺき

やがてそれを背にする。

風景はそこで綴じあつているが

ひとつをうしなうことなしに

別個の風景にはいってゆけない。

大きな喪失にたえてのみ

あたらしい世界がひらける。

峠にたつとき

すぎ来しみちはなつかしく

ひらけくるみちはたのしい。

みちはこたえない。

みちはかぎりなくさそばかりだ。

峠のうえの空はあこがれのようにあまい。

たとえ行手がきまついても

ひとはそこで

ひとつの世界に別かれねばならぬ。

そのおもいをうずめるため

たびびとはゆっくり小便をしたり

うみくさをしたり

たばこをくゆらしたりして

見えるかぎりの風景を眼におさめる。

「日本の湿った風土について」より

最初に読んだ人が必ず「ようわからん」と言う詩です。確かにわかりにくいかもしれません。でも、読めば読むほど味が出てくるんです。特に、いろんな節目節目に読む度に、

その味わいは深くなってきたように感じます。

昨年の夏、私は日本の北アルプスといわれる山々に登山する機会を得ました。剣山のような山に登ったことは何度かありますが、本格的な登山は初めてでした。その間、私の前に広がる光景は、まるで別世界でした。3000m級の山々の峰を山歩きするのですが、それはまさしく、詩「峠」と重なるものでした。「峠は決定をしいる……あかるい憂愁が…・天碧に身をさらし……ひとつをうしなうことなしに…・大きな喪失に…・すぎ来しみちは…・ひらけくるみちは…・たとえ…おもいをうずめるため…見えるかぎりの…」これらの言葉が、峠で座る私の中を流れるようによみがえり、節目節目で読んだ頃のことを思い出させたのです。すごく懐かしい気分にひたりました。それだけでも、「来た甲斐があった」と感じました。また、「自分は今までこんな感動を味わわずにいたのか…」とも感じましたし、「人生で一度は、みんなを登山に連れて来たいな…」とも思いました。それくらい感動することができたのです。

今1、2年生も一つの峠に、また3年生は大きな峠に登り詰めようとしています。その登り詰めたしばらくの間、この詩をじっくり味わいなおしてみてください。きっと、みなさんの心に滲み入るようなこやしとなることでしょう。

3年前に、この大きな峠を登り詰めた一人の女の子から、先日手紙が届きました。

先生元気にしてますか？私は明日T高校を卒業します。といっても、まだ卒業するという実感がありません。まだまだ先のことだと思っていたのに、気がつけば「卒業」という言葉がとびかうようになりました。アッという間の3年間だったけど、私はたくさんの人と出会い、楽しい高校生活がおくれました。ときには、「しんどい、もうダメだ」とあきらめかけた部活、友達の気持ちがわからず悩んだこと、楽しいことばかりではなかったけど、でも悩んだりくじけそうになったときに、私は仲間に助けられました。そのたびに、「T高校に来てよかったです。本当によかったです」って思うんです。

先生、私のときN高校にしてなくてよかったです。もしN高校に行ってたら、今の私の周りにいる仲間には出会わなかっただと思うし、進む道も変わってたと思う。だから、これから高校へ行ったり就職する中学生には、自信を持ってそれぞれの道に行ってほしい。「みんなが行くから行く」というのは、何か寂しいです。「本当にそれでいいんかなあ？」と思ってしまいます。余計なことかもしれんけど…。

でも一つ言えることは、自分で「行きたい」と思ったり、「やりたい」と思って進

学したり就職したら、どんなに苦しいことがあっても乗り越えられるということです。

なんかしようもないことばっかり書いて、先生は私が何を言いたかったかわからぬかもしないけど、私はどうしても、「T高校に行ってよかったです」ということを先生に伝えたかったんです。本当は会って言いたかったんだけど、いつ会えるかわからないんで、手紙を書きました。また会いたいですね。

先生も忙しいと思うけど、頑張って下さい。

実は、彼女がT高校に合格したことがわかった数日後、徳島新聞に次のような記事が掲載されました。

～志望校に合格・夢実現へ努力～

3月18日、私は無事志望校に合格しました。合格するまでの道のりは厳しく、とても苦しかったです。それは高校入試を簡単に考えていたからでした。今の成績で志望校は難しいと分かり、必死で勉強したけど成績は思うように上がらず、途中で志望校をあきらめてほかの高校に変更しました。

入学願書提出一週間前に担任の先生から「前の志望校を受験してみては」と言われ、二日間悩み続けました。やはり当初の志望校に行きたいという気持ちが90%あり、石にかじりついても絶対合格をと思い、今まで以上に勉強し、毎日が本当に苦しいものでした。その苦しみを乗り越えて頑張ることができたのは、高校に合格して同和教育をやりたかったからです。担任の先生もそのことを知っていたので、勧めてくれたのだと思います。

合格した今、先生の期待に応えられるように先輩、友達と一緒に、苦しいことやつらいことも、中学時代にみんなで取り組んだ授業を思い出し、高校でも自分の思いを語って、部落問題の解決に向かって頑張ります。

私の闘いがこれからスタートします。あとども後戻りすることなく、少しでも前進することを望んで、四月から待望の高校で一歩ずつ達成していきたい。

そして、「昨日の自分より今日の自分が好き」になれるよう、頑張っていこうと思います。

1994年3月31日徳島新聞「読者の手紙」より

手紙の彼女が、受験勉強のときの気持ちを新聞社に投稿したのでした。

人はどうしても「入ること」にばかり気をとられることが多いようです。でも、本当に大切なのは、その中でどう過ごすかであり、出るときにどんな思いで卒業していくかではないでしょうか。それがはっきりあれば、高校生活も有意義なものになるでしょうが、も

しはっきりしたものがなければ、意味の薄いものになってしまうかもしれません。偶然に
も何か大きな目的に出会うかもしれません、できることなら、入る前に目的を持って入
りたいのです。そして願うならば、彼女のように「同和教育に取り組む」という目的を
持って卒業してくれると、こんなに心強いことはありません。

まず大切なことは、新しいいろんな仲間をたくさんつくるということ。その中で、おりにふれ、同和教育について、部落問題について語り合っていけば、仲間も増えるものです。そして、そんな新しい仲間を互いに紹介しあえば、また新しい世界が広がっていきます。

いろんな社会に巣立っていくみなさん、いつも心は一つです。その心を大切にして、それぞれの場所で、がんばりませんか！私はここでがんばり続けます。いつみんなが帰ってきても大丈夫なように、ここでがんばっています。そしていつの日か、いつの日かきっと、みんながみんな大切にされ、故郷の名が堂々と言える社会にしませんか！その日にはみんなで、うれし泣きしましょう！すべては佳き日の為に……。



◆ これからの日程 ◆◆◆

いよいよ今年度のMY SKYも最後となりました。今年もいろんなところから、ありとあらゆる記事を掲載しました……学習会(開講式、一泊研修、おいしんぼ大会)、全体学習、校内・板野郡部落問題意見発表会、第1回徳島県部落解放学習会中学生集会、第3回板野中学校同和教育研究大会、そして人権集会……。

登場した人物の主たる名前だけでも……八ツ塚実、和田武広、みなみあめん坊、新屋英子、福田雅子、原田大介、シャンテ、音野修平、露の新治、灰谷健次郎、江口いと、坂村真民、福井達雨、そして松本治一郎……。

この中で、いくつみなさんのお脳裏をよぎったでしょうか？具体的な事柄が残っていないなくとも、無意識の中で、自然とみなさんの中に何かが残っていれば、それで良いと思っています。形あるものは、いずれ必ず無に戻ります。常に目に見えるものが正しいのではなく、常に形あるものが素晴らしいのでもありません。常に見えないものこそを大切にする中で、ときおりキラッと輝くその瞬間を見逃さないような生き方を、相手にも、自分にもしていなければ良いと思うのです。MY SKYを読んでいただいたみなさんの中には、そんな大切な何かが、多かれ少なかれ必ず残っていると信じます。

今年も、全32回分を1冊の本にまとめあげる予定です。何とか最後まで続けられたのも、実はみなさんの輝く命があればこそなのです。1、2年生のみなさんには、来年度また本

《MY SKY 第32号》

紙上でお目にかかるかもしれません、3年生のみなさんとはここでお別れです。まだみなさん的人生はこれからで(私もですが)、自ら切り開ける未来が、大海原のように眼前に横たわっています。限りなき未来へ、チャレンジしてください!その頃私も、別の海原にチャレンジしていることでしょう!共にチャレンジし続ける仲間として、常に手を携えようではありませんか!互いの未来に祝福あれ!!



3月15日(土) 卒業式、卒業イベントinさくらホール(さくらホール)

16日(日) 学習会閉講式・お別れ遠足(7:30~18:30:大阪天保山海遊館)

24日(月) 1996年度修了式



学習会クリスマス会